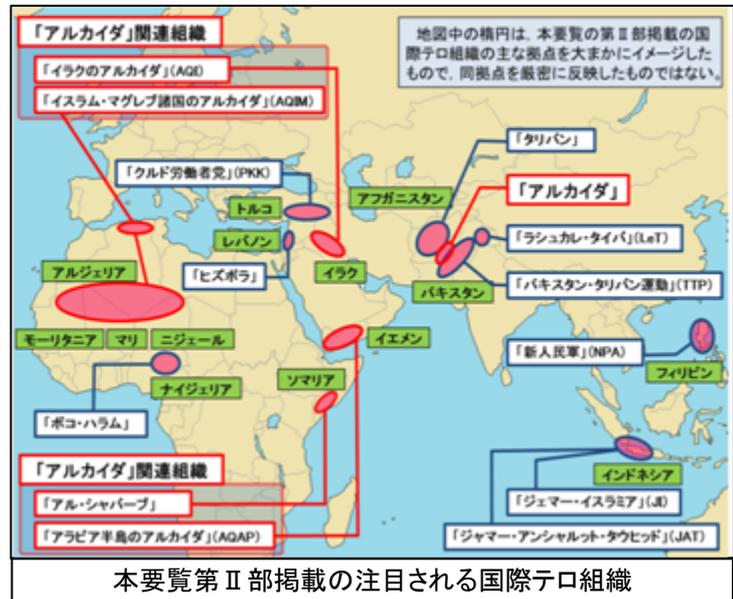


「国際テロリズム要覧2013」の要点

1 国際テロ情勢

- 国際テロ組織「アルカイダ」の指導者オサマ・ビン・ラディン死亡（2011年5月）後も、依然として憂慮すべき状況が継続
- アジアから中東・アフリカにかけての地域を中心に世界各地で発生。欧米においても「ホームグロウン・テロリスト」の脅威が懸念
- 今後も世界各地で国際テロの発生が懸念。我が国においても、その脅威に対して、引き続き警戒する必要



2 「アルカイダ」, 「アルカイダ」関連組織などの動向

- 「アルカイダ」は、多くの幹部が殺害されるなどの打撃を被るも、アイマン・アル・ザワヒリの指導の下、「アルカイダ」関連組織などに対し、頻繁に声明などを発出し、プロパガンダ活動に注力するなど、影響力は健在
- 「アルカイダ」関連組織の「イスラム・マグレブ諸国のアルカイダ」、「アラビア半島のアルカイダ」、「イラクのアルカイダ」、「アル・シャバーブ」などは、中東・アフリカなどで活発に活動。一部は、米国本土を狙ったテロ未遂事件や支配地域確保の試みも
- インターネットを利用し、「グローバル・ジハード」思想を広く、効果的にけん伝し、「ホームグロウン・テロリスト」となり得る若者を感化。こうした中、単独又は少人数でテロを計画・実行する「一匹狼」型のテロも発生

3 我が国に対する国際テロの脅威

- 「在アルジェリア邦人に対するテロ事件」など、海外における大規模テロ事件において、邦人が被害に遭うケースが発生
- 「アルカイダ」がテロの標的として我が国を再三名指し
- 国際テロ組織関係者が過去に入出国を繰り返し
- 「アルカイダ」幹部が過去に在日米国大使館などに対する攻撃を計画